

2021年9月通常会議 補正予算案に対する討論

2021年8月31日

杉浦 智子

私はただいま議題となっています

議案第104号 令和3年度大津市一般会計補正予算（第6号）に対する反対討論を行います。

新型コロナウイルス感染「第5波」では、感染性がより高いデルタ株が主流になり、滋賀県を含む緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が全都道府県の7割に広がるなど、新型コロナウイルス感染爆発は止まりません。感染しにくいと言われていた子どもの陽性者が急増し、感染状況に変化が生まれています。深刻な医療崩壊が起きており、自宅療養者は全国で10万人を超え、県内でも昨日の時点で1,725人と、病状が急激に悪化し、自宅で亡くなるという悲惨な事案が各地で相次いでいます。

市内でも自宅療養者の健康観察を適切に実施できなくなるほど保健所の業務が逼迫しており、コロナ対策に一丸となって取り組む必要があります。つまり災害級の事態であることを再認識して、何よりも命を救う、守る手立てを最優先にしなければならぬということです。

こうした下で提案された本補正予算には、今年7月までに発生した暴風雨や台風9号によってもたらされた道路、河川、農地や農業用施設等への被害に係る復旧事業費や、倒壊した打出中学校グラウンドの防球ネット復旧事業費という速やかに対応が求められている事業の予算が計上されています。そのため急ぎ、開会冒頭で採決することに至ったことは理解します。

しかし、本補正予算に計上されている国庫補助金を活用した大津湖岸なぎさ公園周辺の魅力向上等に要する経費については、質疑で議論したとおり、急ぐ必要がないものと考えます。コロナ感染の封じ込めのためには、人の流れを抑制することも必要だという専門家の意見は、この新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大の中では非常に重要です。

コロナ禍を乗り越えた先にある都市公園のあり方は、大津市がめざすにぎわい創出にも大きく影響を与えるものです。そうした展望を持つための社会実験や実証実験を、感染状況を踏まえて慎重に行うとしながらも、キッチンカー導入ありきだということが明白です。人の流れを抑えるために協力を求めなければならない状況下に実証実験を実施しても、有効なデータを得られるとは思えませんし、貴重な財源の使い方としても認められません。

今、何よりも優先すべきは、市民の命を守るための手立てです。逼迫する保健所の人員の補充や検査の拡充、臨時の医療提供体制の整備、新たな給付金など、市でできる取り組みを進めるための財源に充てるべきです。ワクチン接種をさらに進めていくことと併せて、検査を拡大することの必要性は、ここにきて政府も認めざるを得なくなっているものの現実を直視せず、有効な対策を示すことすらできていません。こんな国の動き待ちでいつまでも手をこまねているのではなく、市として有効な対策に一丸となって踏み出すべきと考えるものです。

よって本補正予算に反対します。

以上で討論を終わります。